

【開催報告】情報発信専門委員会 ネットワーキングセミナー

「地方大学の挑戦—アントレプレナーシップ教育編—」

(2024年11月11日開催)

情報発信専門委員会

RA協議会情報発信専門委員会は、講師に宮城大学 事業構想学部 特任准教授の武田浩太郎さんと宮崎大学 地域資源創成学部 教授の谷田貝孝さんを講師にお招きしてオンラインセミナーを開催し、27名の方に参加いただくことができました。

予測困難な時代、大学にはイノベーションを引きおこし、あるべき未来社会を牽引する役割が求められています。学術研究の成果の事業化により社会変容をもたらすスタートアップ、そして未来社会を担うアントレプレナーを排出していくことは大学全体の最優先課題であり、「地域」における活動の実践は、その最前線といえます。

今回のセミナーでは、地方大学におけるアントレプレナーシップ教育に関する事例報告を通じて、地域や大学の「特性」を活かした人材育成と社会貢献のあり方について参加者と意見交換することを趣旨として開催いたしました。

【実施概要】

- ・テーマ：「地方大学の挑戦—アントレプレナーシップ教育編—」
- ・実施日時：2024年11月11日17:30~19:00
- ・実施形態：オンライン
- ・参加者：27名
- ・プログラム：
 - 開会、趣旨説明
 - 講演1「ソーシャル・イノベーションの時代における公立大学への期待-地域との協働、大型教育事業との関わり-」/武田浩太郎氏（宮城大学 事業構想学部 特任准教授）
 - 講演2「地域から未来を切り開く教育のための論点整理（私案）-令和時代のイノベーション教育の背景・意味・特長-」/谷田貝孝氏（宮崎大学 地域資源創成学部 教授）
 - 質疑応答
 - まとめ、事務連絡、閉会

【講演1】

「ソーシャル・イノベーションの時代における公立大学への期待-地域との協働、大型教育事業との関わり-」 /武田浩太郎氏（宮城大学 事業構想学部 特任准教授）

講演では、まず公立大学の現状について概観し、国のアントレプレナーシップ教育事業の変遷や課題、また地域に関連するユニークな学部を持つ公立大学が紹介されました。続いて、

講師の所属する宮城大学事業構想学群の事業プランニング学類、地域創生学類、価値創造デザイン学類において、大学教育を通じて発展・向上させる能力について説明がありました。

次に、国が進める人材育成コンソーシアム事業である「SPARC（地域活性化人材育成事業）」「COC+R（大学による地方創生人材教育プログラム構築事業）」「COC+（地（知）の拠点大学による地方創生推進事業）」について、実施機関別のデータが示され、全大学における公立大学の割合が12.5%であるにもかかわらず、これらの人材育成事業に占める公立大学の割合は高く、特に SPARC においては 35.3%が公立大学であると示されました。

さらに、インパクト投資やインパクト・スタートアップ企業についての説明があり、これまでの GAP ファンド等、大学が取り組んできた既存のイノベーション領域に加え、アントレプレナーシップ教育の成果が期待される領域がインパクト投資の対象として広がりを見せていることが指摘されました。

この講演では、公立大学がアントレプレナーシップ教育を含めた人材育成や地方創生・活性化の牽引役として機能していることに加え、ソーシャルビジネスへの投資への関心が高まる中、インパクト・スタートアップの創出環境が整いつつある現状も紹介されました。今後、公立大学がインパクト・スタートアップ創出の文脈でさらなるプレゼンスを発揮することが期待されていると強調されました。

【講演 2】

地域から未来を切り開く教育のための論点整理（私案）-令和時代のイノベーション教育の背景・意味・特長- / 谷田貝孝氏（宮崎大学 地域資源創成学部 教授）

本講演では、令和時代のイノベーション・アントレプレナー教育の背景として、バブル崩壊後の「失われた 30 年」と呼ばれる平成期のイノベーションとアントレプレナーシップの停滞が挙げられました。講師は、組織的な課題と個人の意識の問題の両面から、この停滞がどのように起きたかを分析し、産業化時代に画一的な労働者を育成する教育が、社会全体の活力低下やアントレプレナーの不足、イノベーションの停滞を招いたと説明されました。

続いて、平成期に台頭した新自由主義の影響について言及し、経済成長の促進という一方で「敗者」のレッテルを貼り、自己肯定感の低下を招きやすい社会構造が生まれたと指摘しました。このような風潮は「失敗を許容しない風土」を広げ、教育現場にも影響を与え、若者の心理状態にも深刻な悪影響を及ぼしていると説明がありました。

次に、令和時代のイノベーション・アントレプレナー教育の特徴として、平成期の背景や新自由主義的な風土の中で低下している若者の自己肯定感を改善するため、非認知能力（例：自己肯定感や社会的情熱）を含む包括的な教育の重要性が強調されました。具体的には、日本の代表的なアントレプレナーによる社会貢献の事例を紹介し、非認知能力と認知能力を育む教育プログラムやワークショップの導入が提案されました。

最後に、これらの教育プログラムの効果を測定するための指標開発が今後の重要な課題

であると述べられました。

二講演後にまとめて質疑応答の時間を設定し、2人の講師には、参加者からの質問にも丁寧に答えていただき、とても充実した意見交換が行われました。

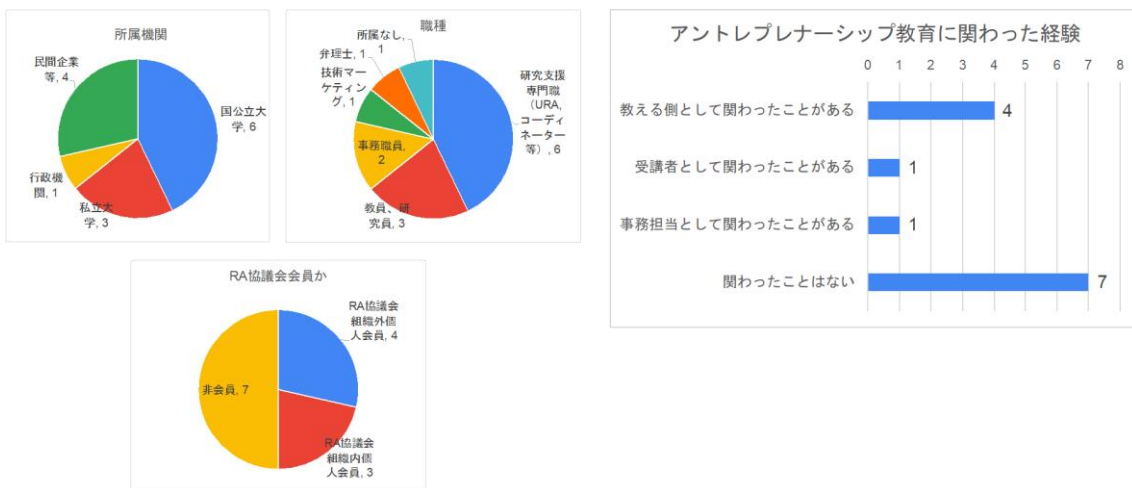
令和時代において、地域の未来を創造する人材を育成するには、公立大学を中心とした地域密着型のイノベーション教育が極めて重要です。今回の講演内容からは、地方大学（今回は公立大学）が持続可能な地域活性化に貢献し、社会的情熱やしなやかマインドセットを兼ね備えた人材の育成に注力すべきであることが示唆されました。

（文責：宮田知加）

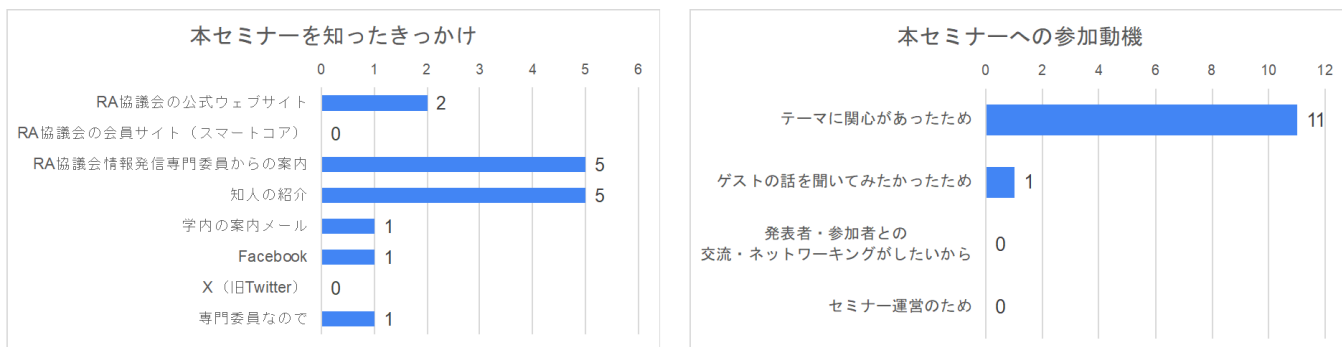
参加者アンケート結果

参加者 27 人のうち 14 人が回答、回答率 52%

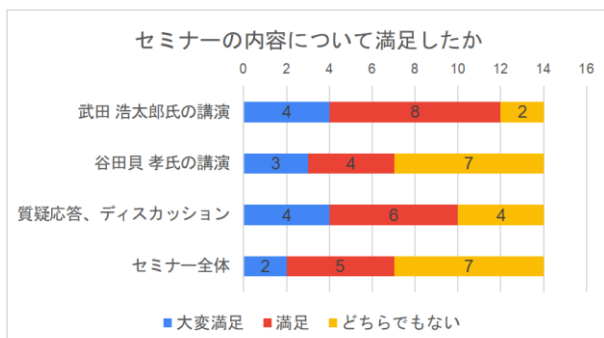
参加者の属性 (N=14)



セミナーを知ったきっかけと参加動機 (N=14)



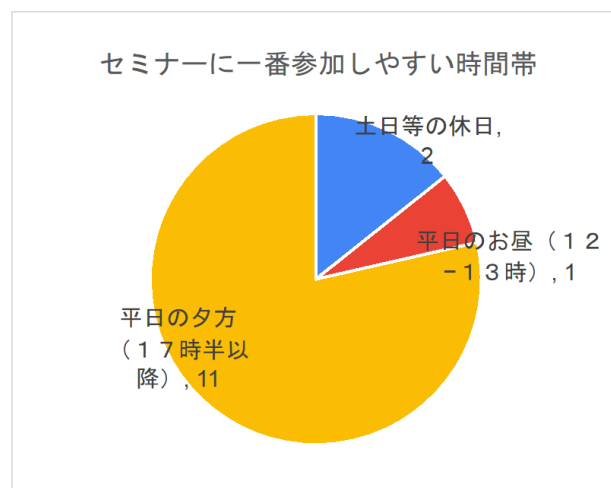
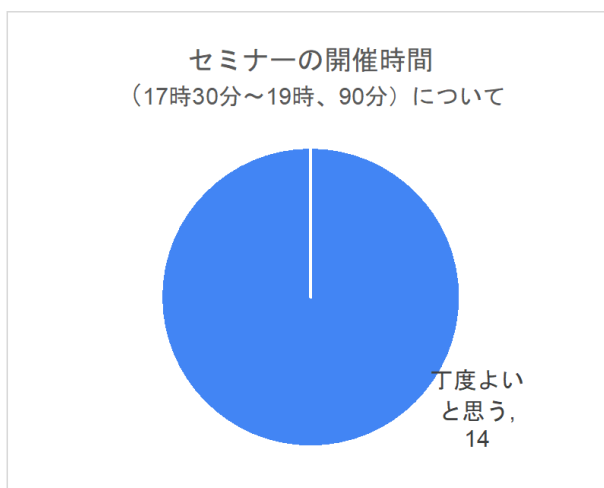
セミナーの内容に満足したか (N=14)



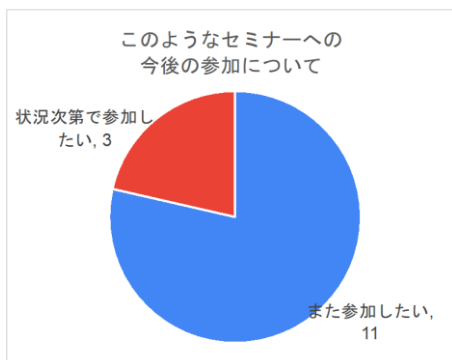
<回答理由・感想など（自由記述）>

- 大変勉強になりました
- 谷田貝先生の話は興味がある話ではあったが、資料がないので右から左になってしまうのと、前提知識がないと深い理解が難しいと思いました。
- 武田先生のお話については現場の苦勞などをもっと深く共有していただいた方がよかったですと思いました。
- 日本は無償でアントレプレナーシップの知財を取り上げ、資金は提供しない風土がある。起業の価値を評価しないか、できないかの問題がある。
- 視聴させていただき、ありがとうございました。アントレプレナー・シップ、アントレプレナー教育に関心あり、視聴しました。質問も取り上げていただき、大満足です。所属機関は、必須質問であったのですが、該当回答がなかったので、民間企業等に、チェックを入れました。
- 具体的な事例とともに、実践的な対策や提案が聞けて勉強になりました。
- 経験に基づく、本音ベースのお話が聞けて、良かったです。自大学にすぐ使えるという形ではなかったのですが、他大学のアントレプレナーシップ教育への向き合い方が分かり、今後の参考になりました。
- 特に地方大学の実情を知ることができて有益であった。

セミナーの開催時間 (N=14)



今後の参加について (N=14)



講師への質問やコメント、今後開催してほしい企画や、聞いてみたい話題（講師）など

- 遅刻したので、資料が配布されたのか、不明だった
- ご講師の先生には、つたない質問にお答えいただき、感謝します。日本の経済活動を、持続可能なものにするには、ご講師の先生方、皆様のご活躍で、イノベーションに貢献できる多くの学生さん等へのアントレプレナー教育が、重要になってくると思うので、日本のため、お国のため、国民のため、地域にも貢献できて、社会課題を解決できる人財の育成を、よろしく願います。今後開催してほしい企画等は、お任せします。
- 地方大学の挑戦、アントレプレナーシップ教育の取組、それぞれとても参考になるお話と質疑応答でした。
- 講師の皆様、興味深い情報をありがとうございました。運営の皆様、お疲れさまでした。